
窯の温度を常に注視


窯から作品を出す“窯出し”


作品をみて笑顔がこぼれる


窯出しを終えての祝賀会

釉薬を使った作品


紫陽花釉丸瓶
紫陽花のように色の変化が美しい。


金花紋酒器
金の花が咲き乱れたような結晶模様。


瑠璃釉雪降り鶴首花瓶
青地に雪が降りかかったような作品。


金花紋抹茶碗

この地の土で

青木さんは、自性寺焼に携わる真の意味をこう語りました。「秋間の地は長い歴史と良質の資源を有している。遠い古代から、焼き物はその時代の文化を支えてきた。それぞれの地には、必ず何らかの焼き物が焼かれ、人々の暮らしの中に溶け込んできた。そんな文化を守りながら、私はこの地のこの土を焼き続けたい。ほかの地にはない土の温もりと、真に秋間の土産（どさん）であることに誇りを感じることができるからである。土へのこだわりは私の人生のこだわりなのである」



青木　昇

現代の名工(卓越技能章)
黄綬褒章受章
市指定重要無形文化財
県ふるさと伝統工芸士

自性寺焼 里秋窯
安中市下秋間
4670－1

取材時、広報担当を温かく迎え入れてくれた青木さん。

写真は、焼き上がった作品を熱さの残る窯から取り出し終えた瞬間。すべての工程を終え、最高の笑顔を見せてくれた。その後、焼き上がった作品を目の前にすると、安堵の表情から陶芸家「青木昇」としての表情に。



中村　里峰（りほう）

青木先生に師事
県ふるさと伝統工芸士

大学を卒業後、平成元(1989)年に青木さんの「里秋窯陶芸塾」に入門。平成25(2013)年4月から青木さんに弟子入りし、本格的に作陶を始める。以後、青木さんにより復興された自性寺焼の美しさや素晴らしさを後に継ぐ者として日々作陶に励み伝統を受け継いでいる。

近年、県内を中心に陶芸展の開催など文化を普及する活動なども行っている。